

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 3月29日

【評価実施概要】

事業所番号	2073500064		
法人名	有限会社ふるさと		
事業所名	斑尾の森グループホームふるさと		
所在地	長野県中野市大字穴田794番地1 (電話) 0269-38-2565		
評価機関名	コスモプランニング有限会社		
所在地	長野市松岡1丁目35番5号		
訪問調査日	平成20年3月28日	評価確定日	平成20年4月22日

【情報提供票より】 (平成20年 3月14日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13年 3月 30日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 6人, 非常勤 4人, 常勤換算 5.2人	

(2) 建物概要

建物構造	木造り		
	2階建ての	1～2階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000～24,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費21,000 円
敷金	有 ( 円 )	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 円 )	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		900 円

(4) 利用者の概要(平成20年 3月14日現在)

利用者人数	8 名	男性 0 名	女性 8 名
要介護 1	3	要介護 2	2
要介護 3	2	要介護 4	1
要介護 5	0	要支援 2	0
年齢	平均 82 歳	最低 70 歳	最高 93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・ながさき医院	・丸谷医院	・岸歯科
---------	---------	-------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人代表の大きな生家をバリアフリーに増改築した二階建ての当ホームは文部省唱歌「ふるさと」の情景の中にあつた。自然豊かなこの地は居ながらにして四季を楽しみ、心ゆくまで季節の移ろいを堪能することが出来る。また、入居者が活き活きと生活することが出来るように職員は個別支援に取り組んでいる。ホームの協力医とは何時でも相談できる関係が築かれており、入居者、家族そして職員は安心して生活している。入居者と職員が「家族」となつてのんびりと生活しているホームの光景は微笑ましく、まさに「ふるさと」の世界にタイムスリップした気分させてくれる。住み慣れた地域で最後まで暮らし続けられる理想郷になることを期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価に関しては全職員で話し合い取り組んだ。生活歴の情報に関しては家族以外の人からも話を聞くように改善した。救急法の講習を受け緊急時に対応できるようにした。献立に関しては栄養士との連携を定期的にするなど改善項目に対し積極的に取り組みサービスの向上に役立てた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義や目的を全職員は理解している。今回で3回目となる自己評価を実施するにあたり更に質の高いサービスを提供しようと運営者、管理者、職員で話し合いながら行った。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議のメンバーは家族代表、民生委員、地域包括センター、市介護保険課担当者で構成されている。ホームの活動報告や地域密着型サービスについての説明のほか防災訓練の協力をお願いするなど多岐にわたり報告をしている。話し合いを通して率直な意見や助言をもらい、ホームの運営やサービスの向上に役立てている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	何時でも気づいたことや気になっていること等を気軽に言ってもらえるように働きかけている。頂いた意見等は直ちに検討し運営や日々のケアに活かす取り組みをしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の祭りやイベントがあるときにはお誘いがあり出掛けている。寄り合いに出席し情報交換をしている。小学校の子供たちや地元の住民とは散歩の折に挨拶や言葉を交わし交流を深めている。野菜を頂くなど隣近所のお付き合いをしている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念の中の「家庭的な雰囲気の中で自立した日常生活を営むことが出来るように、またその人らしい生活が継続できるように支援する」を開設時より続けている。全職員で地域密着型サービスの理解を深めるための話し合いをしている。	○	見直す機会があれば、地域密着型サービスの役割としての「地域住民との交流の下で」等を検討され、現在のホーム理念に更に加えられ、実践されることを望みます。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝夕の申し送り時やミーティング、職員会議などで理念の実践について話し合い、入居者一人ひとりに関する際の基本的な姿勢を確認し合っている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の行事（祭りなど）には入居者と一緒に出掛けている。寄り合いにも出席し情報交換している。小学校の子供たちや地元の住民とは散歩の折に挨拶を交わしおしゃべりをしている。野菜を頂くなど隣近所のお付き合いもしている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員で行っている。職員は評価の意義や目的を理解しており自らのケアサービスを振り返り、他職員の考え方を聴くことで知識の幅も広げている。改善すべきことに関しては話し合い具体的に取り組んでいる。		

斑尾の森グループホームふるさと

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ほぼ3ヶ月に一回開催している。外部評価の結果を報告し改善への取組みを伝えたり、地域密着型サービスについて説明し意見交換を行っている。また防災訓練への協力をお願いするなど地域との交流が更に進むよう話し合いをしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	災害発生時の対策会議や寄り合い等に参加するなどしてホームの状況報告をしている。市担当者とは常に情報交換しているので何かあれば気軽に相談できる関係が築かれている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者家族の面会は少なくとも月に1回はあるのでその時に日々の様子や健康状態など報告している。出納帳や介護サービス計画書も説明し確認していただいている。必要に応じ電話連絡もしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃より気づいたことや気になっていること等何でも言って頂けるようお願いしている。家族の面会時にはゆっくりと話しが出来るような雰囲気作りにも心掛けている。頂いた意見等は職員で話し合い運営に活かす取組みをしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の悩みや話を聞いたり働きやすい環境づくりをして離職などを最小限にしている。止むを得ず交代する場合はホーム内の雰囲気が変わらないように配慮している。		

斑尾の森グループホームふるさと

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月勉強会を開き技術や知識の向上に努めている。また、職員が日々能力を高められるように介護やケアなどの参考資料を配布している。研修参加者は職員会議等で報告し内容を共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡会に参加している。相互交流の活動を通して職員らは良い刺激を受けており、サービスの質の向上に活かす取り組みをしている。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が納得し安心して利用を開始することを基本としている。職員が自宅や施設を訪問し話しをしたり、本人にホームに来てもらい雰囲気を感じてもらいながら馴染みの関係作りをしている。家族との連絡、相談も密にとっている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者から昔の話やいい伝え、ことわざの意味を聞いたり、料理の仕方や工夫を教えてもらっている。入居者の考えや話等はとても学ぶことが多く尊敬の念を抱いている。		

斑尾の森グループホームふるさと

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの意向は家族の話しや本人の生活歴から把握に努めている。日々の会話や吹き、行動などから思いや意向を理解するように努めている。生活歴は家族以外に兄弟など幅広い関係者からも情報を得ている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者家族から意向を聞き、入居者一人ひとりがその人らしく生き活きと暮らし続けられるように職員で話し合い本人本位の介護計画を作成している。家族には計画を説明し了解を頂いている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しは行っていないが必要に応じて家族、職員等と話し合い介護計画を作成しなおしている。	○	介護計画の遂行状況確認と入居者の状態変化等の気づきを職員間で確認しあうために毎月見直しをしていただきたい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	買い物や通院などに家族が付き添えないときは家族に代わって付き添うなど柔軟な支援をしている。		

斑尾の森グループホームふるさと


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後は入居者家族の了解の上、入居前のかかりつけ医の紹介状を受けたホームの協力医がかかりつけ医となっている。受診や通院は本人や家族の希望に応じている。専門医に関しては引き続き医療機関と連携を取り、適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	認知症状の進行が早い入居者については家族に常に状態を報告しかかりつけ医とも情報交換を密にしている。終末期の入居者に関しては状態に変化があるたびに家族、かかりつけ医、職員と話し合っている。ホームとしての終末期の具体的な方針は出していないが最期まで居たい、利用したいと希望する入居者家族の声がある。	○	「最期まで居たい」という希望もあるので入居者家族が安心してサービスを利用できるように前向きに検討されることを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	「入居者の誇りを傷つけない」・「プライバシーを損ねない」声かけや対応に心掛けている。個人情報保護法を職員は理解しており守秘義務に関しても職員教育されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースで過ごせられるよう見守っている。お茶を飲みながら今日は何をしたいのか希望を聞きながら柔軟に支援している。		

斑尾の森グループホームふるさと

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の調理や盛付け、片づけを一緒に行っている。入居者とテーブルを囲み楽しく食事が出来るように雰囲気づくりに努めている。イベント時の食事は目でも楽しんでもらえるように工夫をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	冬場以外は希望時に入浴できるように支援している。入浴を嫌がる入居者には無理強いせず本人の気持ちを大切にしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴や家族の話から入居者一人ひとりの得意なことや力量を職員は把握している。日々の暮らしが楽しみや張り合いのあるものになるように力量に応じた場面作りをしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的にホームの周辺を散歩している。また、家族の協力を得ながら外出もしている。訪問時、一週間の旅行に家族と出掛けている入居者がいると伺った。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵を掛けず自由に入出りできるようにしている。大きな民家を改修したホームであるため見守りが難しい箇所には鈴を付けるなど工夫している。		

斑尾の森グループホームふるさと

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の避難については検討しているが避難訓練や防災訓練などは行っていない。防火管理者はいる。消防署主催の救急法の講習、消火器の取り扱いの訓練があるときは積極的に参加している。運営推進会議で防災訓練に関しての地区住民の協力をお願いしている。	○	定期的に避難訓練、防災訓練を実施することを望みます。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事量は毎日記録に残している。栄養バランスや献立に関して知り合いの栄養士に相談している。日常的には看護師が一人ひとりの栄養摂取状況を確認し、必要に応じ職員にアドバイスしている。定期的に栄養士からのアドバイスを受けたい希望もあり、今後運営会議で相談していく予定である。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い居間の大きなコタツには入居者と職員が新聞や広告などを見ながら談笑したり横になる姿もあり和やかにのんびりと過ごしている。また広めの縁側には春の陽射しがいっぱい差し込んでいた。食堂の窓からは地区の家々や里山、田畑を見ることも出来るので入居者は春夏秋冬の地域の暮らしを話題にしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はフローリング部屋とタタミ部屋があり、どの居室からも広く窓の向うに山河などを眺めることが出来る。椅子やテーブル、小物などが持ち込まれており本人が望む居室づくりがされている。		

※  は、重点項目。